

市民意見・関係者ヒアリング結果について(経過報告)

1. 本市ホームページに寄せられたご意見

- 仙台市ホームページ「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の検討状況」内に受付フォームへのリンクを設置し、令和4年8月31日より、意見を募集している(令和5年4月10日時点の累計65件)。
- 『市民の声』にも、複合施設に係る意見が寄せられている(令和4年1月以降の累計24件)。

【主なご意見】

- ・「文化芸術の総合拠点と災害文化の創造拠点の複合施設整備事業は文化政策である」か否かを検討し基本構想に明記してほしい。
- ・本当に新しい音楽ホールが必要なのか疑問。また、新しいメモリアル施設も不要。青葉山交流広場はあのままであるべき。

2. 仙台防災未来フォーラム 2023 出展者へのアンケート

- 3月4日(土)に開催した「仙台防災未来フォーラム 2023」の出展者(市民団体、民間企業、学術・教育機関等)に対し、中心部震災メモリアル拠点に求めることなどについてアンケートを実施した。

【来場者数及び出展団体】

- ・来場者数 約 3,900 人
- ・出展団体 延べ 122 団体

【主なご意見】

- 市民団体等からのご意見
- ・定期的な関係団体との交流の場、意見交換が出来る機会を設けていただきたい。それぞれの分野の中で取り組まれていることを知り、学ぶ中で自分たちの分野にも生かしていきたい。
- ・ハコをつくるのであれば、なんとなく行きたくなる場としての魅力・パワーが必要。そのうえで交流する仕掛け、イベントが程よくあることが必要。
- ・民間団体に必要なのは、運営していく予算とマンパワー。人材バンクのような形で、「そこに行けば、作業を手伝ってくれる人がいる」仕組みがあれば、魅力的。
- ・教育的観点では、実際に揺れ、津波を体験する施設、避難所生活の体験など、実体験を通して自分化できるもの、かつ小さな団体や施設では提供できないようなものを用意いただきたい。
- ・普段からの取り組みをより多くの方に知っていただき、特に企業とのマッチングにて団体の活動、または個別の活動に対する事業支援、協力が組める機会を提供いただきたい。
- ・防災まち歩き等を通して地域を知り、災害文化と災害への備えを行うことを、仲介する役割を果たしてほしい。
- ・防災・減災、復興に関連する事業を催すことができるスペースを作ってほしい。
- ・一人ひとりの意見を尊重する環境の中で、若い人たちが集まれるような企画を通して、若いリーダーを育ててほしい。
- ・フォーラム同様、活動を紹介する場やつながりを持てる機会(意見交換会など)があるといい。また、一般市民が防災に気軽に興味を持てるよう、既存イベントとの共同開催等もいい。

- ・実際災害に遭遇した場合自分だったらどのような行動をするのかをシミュレーションを通して体験する場があるといい。

○民間企業等からのご意見

- ・過去の災害を知ることだけではなく、これからの災害に対してどのような行動をしたらよいのかといったことなどを考えるきっかけや議論できるような場にしていただきたい。
- ・9月の防災月間等に対応したイベントの開催や各地の施設とも連携できるような仕組みがあるといい。
- ・県内外の団体との連携やマッチングを推進し災害文化を醸成し合えるような仕組みが望ましい。
- ・防災体験や震災の追体験などの体験学習ができる施設があったら、楽しみながらわかりやすく学べると思う。
- ・様々なNPOなどが交代で、各団体の取り組みに関連する講座などを開ける場があるといい。
- ・災害発生の原因を知り、今の生活スタイルの振り返りの場を目指してほしい。幅広い年齢層の方が、災害が身近にあることを知り、命を守り、守られる行動ができるきっかけとなる場づくりに期待します。

○学術・教育機関等からのご意見

- ・個々の団体が日常の活動内容を展示でき、日常的に様々な団体の取り組みや活動を知ることができるといい。
- ・子供たちが防災について主体的に学ぶことができる、体験できる場所であるといい。
- ・東日本大震災被災地で教訓を学ぶために訪れる方々に対して、被災地のゲートウェイとして、まず被災の全貌、復興の概況、教訓の全体像を把握できる施設になっていただきたい。そのためにも、来訪者に対して数時間の研修を行えるスペースを設けていただきたい。
- ・仙台市内・宮城県内にとどまらず、なるべく広範囲での災害文化の紹介を行っていく必要がある。世界中に「災害文化」というものはあるのだという事を理解してもらい、自分自身の地元の「災害文化」に目をむけるきっかけにもなると思う。あまり大衆に知られていない「災害文化」を発掘する場としてもこの拠点を成り立たせることは有意義なことと思う。